

センター試験まであと1年

センター試験まで、あと1年。まだまだ先だと思っていると、あっという間に1年たってしまいます。苦手科目を克服しましたか。それぞれの試験の見直しは完璧ですか。学力を伸ばす近道は、ありません。地道に努力を続けることだけです。

貴方のセンター試験の目標得点率は何割ですか。目標得点に達するには、どうしたらよいのですか。まずは、今年度のセンター試験の問題を見てみましょう。河合塾による分析は下記に載せたとおりです。問題は、新聞に掲載されていましたし、河合塾や東進ハイスクールのホームページにも載っています。何かを攻略するためには、その相手を知る必要があります。1年後に向けて、努力開始。

【英語(筆記)】

センター試験が始まって以来続いていた対話文完成問題が出題されなかった。一方で、第2問Cの応答文完成問題で、完成させる文の前にある対話文の分量が増え、対話の流れを読み取るという側面が強まっている。第3問Bの、学生たちによる話し合いにおける発言の主旨を選ぶ問題では、発言者の人数がこれまでで最多の7人となった。また、第5問の長文読解問題の本文は、地球と思われる惑星を調査する宇宙人が書いた日誌からの抜粋という昨年に引き続き珍しい内容の文章が出された。全体として、分量に大きな変化はなく、傾向の大幅な変更も見られないが、実践的なコミュニケーション能力を問うという現行課程の方向性をより意識した出題であった。

【英語(リスニング)】

出題傾向に大きな変化はないが、対話の流れを正確に理解する力と、これまで以上に多様な応答表現の知識が問われるようになった。設問総数と読み上げ文の総語数にほとんど変化はなかった。印刷された質問・選択肢の総語数は昨年より約70語増え、その点では若干負担増であったが、第3問Bの情報の読み取りの負担は若干軽減された。

【国 語】

第1問(評論)は、さまざまな具体例を挙げながら、現実をデザインするという人間の本质について論じた文章が出題された。本文に示された2つの図(写真)に関連した生徒の話し合いが紹介され、そのうちの一人の発言が空所補充問題として問われたのは新傾向である。第2問(小説)は現代の作家による短編小説の一節からの出題で読みやすい文章であった。第3問(古文)は問答体で書かれた歌論。本試験での歌論の出題は2001年度以来である。話の展開を読み取らせる例年の問題と違い、本文の記述から筆者の主張を把握する力が試されている。第4問(漢文)は、昨年は日本漢文からの出題であったが、南宋の歴史書からの出題であった。内容はやや抽象度が高かったが、本文・設問ともに難易度に変化はなかった。

【数 学】

「数学Ⅰ・A」：公式・定理に当てはめて計算するだけでなく、誘導に従った式変形や図の形状を分析するなどその場での対応力を図る問題がいくつか出題されている。「図形と計量」、「図形の性質」では、正しく図を描いて論証の根拠を考察する力が求められた。

確率は昨年同様に、条件つき確率が複数題出題された。集合と命題は前半の部分は正誤の判定がやや煩雑であった。データの分析はヒストグラム、箱ひげ図、散布図から読み取りをする問題と、共分散の等式に関する計算問題であった。散布図に補助線が描かれていたのは新しい。

「数学Ⅱ・B」：全体的に誘導は丁寧であったが、見慣れない設定や題意が把握しづらい問題が多く、計算量も多かった。三角関数の問題では、弧度法の定義を問う問題は目新しい。また微分法と積分法の問題では、面積から関数を決定する目新しい出題があった。平面ベクトルの問題においても、ベクトルの始点が標準的な頂点でない設定は珍しかった。計算も要領よくおこなうことが求められた問題設定であった。典型問題の演習だけでなく、しっかりとした理解と、学習した内容の活用が問われた出題であった。

※理科・地歴公民科は割愛しましたが、各自で調べておきましょう。

ブレイクスルー思考

「自らの手でドアノブを回した者だけに報奨がもらえる」

上記の言葉は、校長先生が1月9日の放送集会で紹介した内田^{たつる}樹氏の言葉です。内田氏の「ブレイクスルー」について書いた文章があるので紹介します。

「ブレイクスルーというのは自分で設定した限界を超えるということです。「自分で設定した限界」を超えるのです。「限界」というのは、多くの人が信じているように、自分の外側にあって、自分の自由や潜在的能力の発現を阻んでいるもののことではありません。そうではなくて、「限界」を作っているのは私たち自身なのです。「こんなことが私にはできるはずがない」という自己評価が、私たち自身の「限界」をかたちづくれます。「こんなことが私にはできるはずがない」という自己評価は謙遜しているように見えて、実は自分の「自己評価の客観性」をずいぶん高く設定しています。自分の自分を見る眼は、他人が自分を見る眼よりもずっと正確である、と。そう前提している人だけが「私にはそんなことはできません」と言い張ります。でも、いったい何を根拠に「私の自己評価の方があなたからの外部評価よりも厳正である」と言えるのか。

ブレイクスルーとは、「君ならできると」という師からの外部評価を「私にはできない」という自己評価より上に置くということです。それが自分自身で設定した限界を取り外すということです。「私の限界」を決めるのは他者であると腹をくくるのです。」

(『街場の教育論』内田樹：著 ミンマ社)

だから言おう。君たちにはすばらしい能力があると。しかし、君たちの学力を伸ばせるのは、君たち自身です。何もしなくて学力を伸ばせるはずはありません。自分の可能性を信じ、自分の将来を自分の手で獲得するために動き出しましょう。やるべき事は、目の前にあるはずです。一つ一つコツコツと取り組んで、進路希望先に合格しましょう。